

「警戒ステージ2」への移行について

【令和2年10月28日】

	医療提供体制等の負荷			監視体制	感染状況		
	病床全体	うち重症者用病床	療養者数	検査陽性率	新規感染者数	先週1週間との比較	感染経路不明割合
10/27	151床	2床	増加	増加	291人/週	増加	42%
10/26	150床	3床	増加	増加	295人/週	増加	42%
ステージ2基準	150床	15床	増加	増加	107人/週	増加	50%

10月28日をもって、「ステージ2」へ移行

【判断の根拠】
別添のとおり

【ステージ2の基本認識】

ステージ2は、感染が徐々に広がり始める状況であり、社会経済活動への影響を最小限に抑えながら、この段階で感染防止対策を徹底し、感染拡大を早期に抑え込み、社会経済活動との両立を進めるための重要なステージ

【施策の考え方】

全道域で危機感や感染防止意識を高めつつ、道民等に対して特措法に基づく協力要請を行うとともに、普及啓発等の感染拡大防止対策の更なる強化を実施

判断の根拠について

本道においては、警戒ステージのステージ2の指標のうち、病床、療養者数、PCR検査陽性率、新規感染者数について前週から増加傾向であるなど、5つの指標で基準を超えた。

シルバーウィーク以降、連日2桁の新規感染者が発生し、10月22日からは4月、5月の感染ピーク時を上回る感染者の発生が連続し、10月24日には過去最多となる60名の感染者が確認されるとともに、入院患者数は9月27日の77人から一ヶ月で倍増し、10月26日にはステージ2の基準である150人に達したところ。

年代別割合では、30代以下が約7割を占め、若い世代を中心に感染が拡大するとともに、40代以上の実数も拡大していることから世代を問わず、感染の広がりが見られる。

地域の感染状況は、石狩振興局管内の感染者数が約7割と多数を占めているものの、空知、胆振、日高、釧路振興局管内で集団感染が発生するとともに、全道各地でリンクなしの新規感染が確認されており、全道域での感染の広がりが見られる。

感染者の行動履歴では、旅行など道外との往来、会食や会合などへの参加、職場内や家庭内での接触など、幅広い場面での「マスクをしていない」、「人と人との距離が近い」といった感染リスクが高くなる行動事例が見られ、また、接待を伴う飲食店等、学校、職場、福祉施設など、多様な場での集団感染が確認されている。

10月27日には、ステージ2への移行の7つの指標のうち、5つの指標で基準を超えたところであり、新規感染者数の増加が続き、世代間や地域での感染の広がりが見られる中、入院患者数も増えていること等を総合的に勘案し、ステージ2への移行が必要であると判断する。

2

最近の感染状況について

1. 警戒ステージに掲げる指標について

【医療提供体制等の負荷(指標①)】

10月27日時点の入院患者数は151名、うち重症者は2名であり、病床は「ステージ2」の指標(150床)を超え、増加傾向にある。

療養者数は、入院患者151名と宿泊療養者180名の計331名であり、前の一週間と比べて増加傾向にある。

【監視体制(指標②)】

直近1週間(10月21日～10月27日)の検査数は6,223件、陽性率は4.7%となり、検査数、陽性率ともに増加傾向にある。

【感染状況(指標③)】

直近1週間の新規感染者数は291名であり、ステージ2の指標(107名)を大きく超えて、前の一週間の感染者と比べて増加傾向にある。リンクなしの感染者数割合の直近1週間平均は41.9%であり、「ステージ2」の指標(50%)を超えていないが増加傾向にある。

3

最近の感染状況について

2. その他の数値、データについて

【感染者の年代別割合】

30代以下が約7割を占め、若い世代を中心に感染が拡大するとともに、40代以上の実数も拡大していることから、世代を問わず、感染の広がりが見られる。

【療養者の状況(入院と宿泊療養)】

入院は151名、宿泊療養は180名で療養者総数は331名となっている。重症者は2名となっており、これを除く、無症状、軽症、中等症の患者は329名となっている。

【感染者の行動履歴】

感染者の主な行動履歴を見ると、旅行など道外との往来、会食や会合などへの参加、職場内や家庭内での接触といった幅広い事例が見られる。

【集団感染の発生事例】

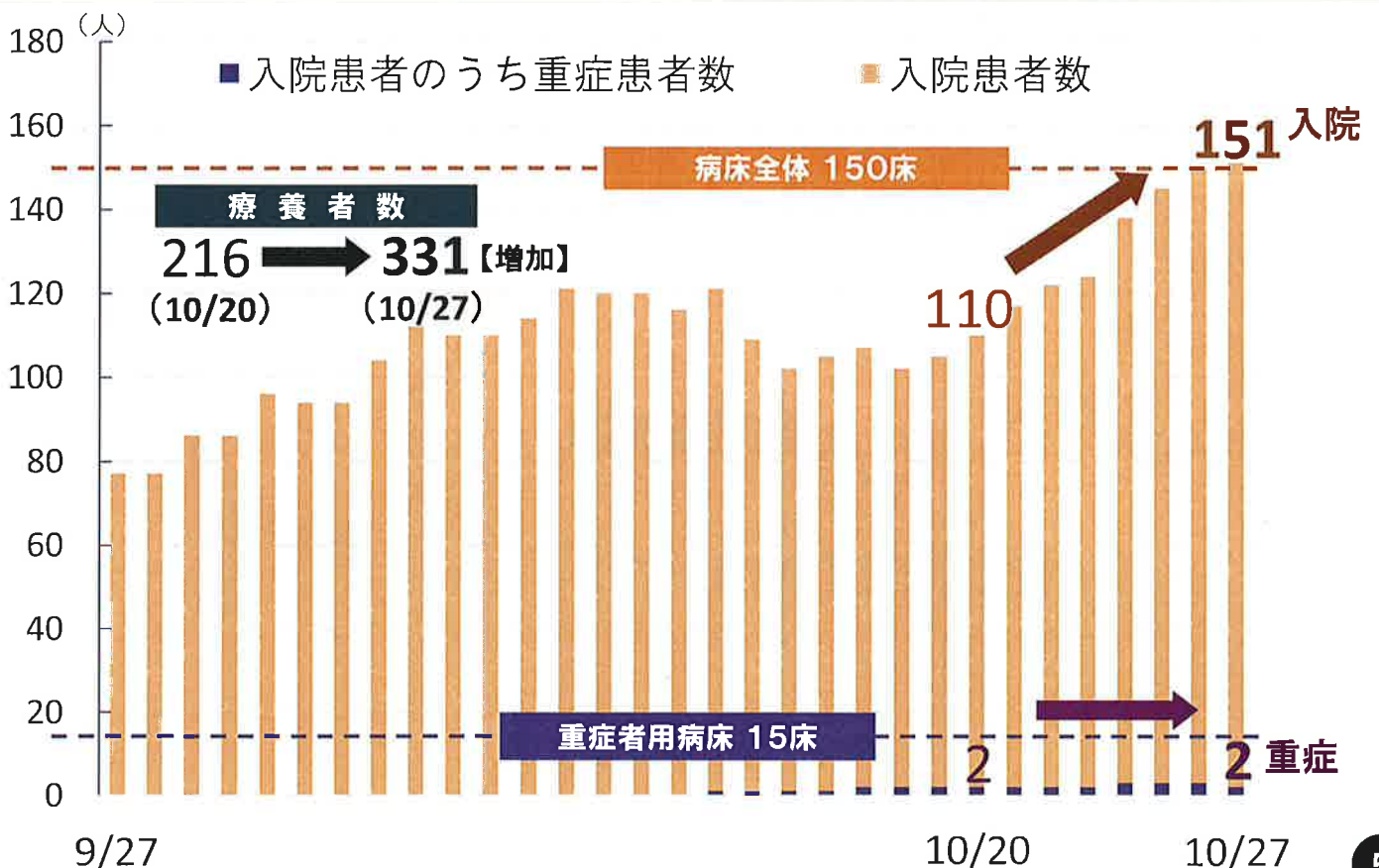
接待を伴う飲食店等、学校、職場、福祉施設において集団感染が確認されている。

【地域別の感染状況】

地域の感染状況は、都市部を含む石狩振興局管内の感染者数が6割以上と多数を占めているものの、一ヶ月前と比較して、札幌市保健所管内以外での感染者の割合が高くなっている。最近では空知、胆振、日高、釧路振興局管内で集団感染が発生するとともに、全道各地でリンクなしの新規感染が確認されており、全道域での感染の広がりが見られる。

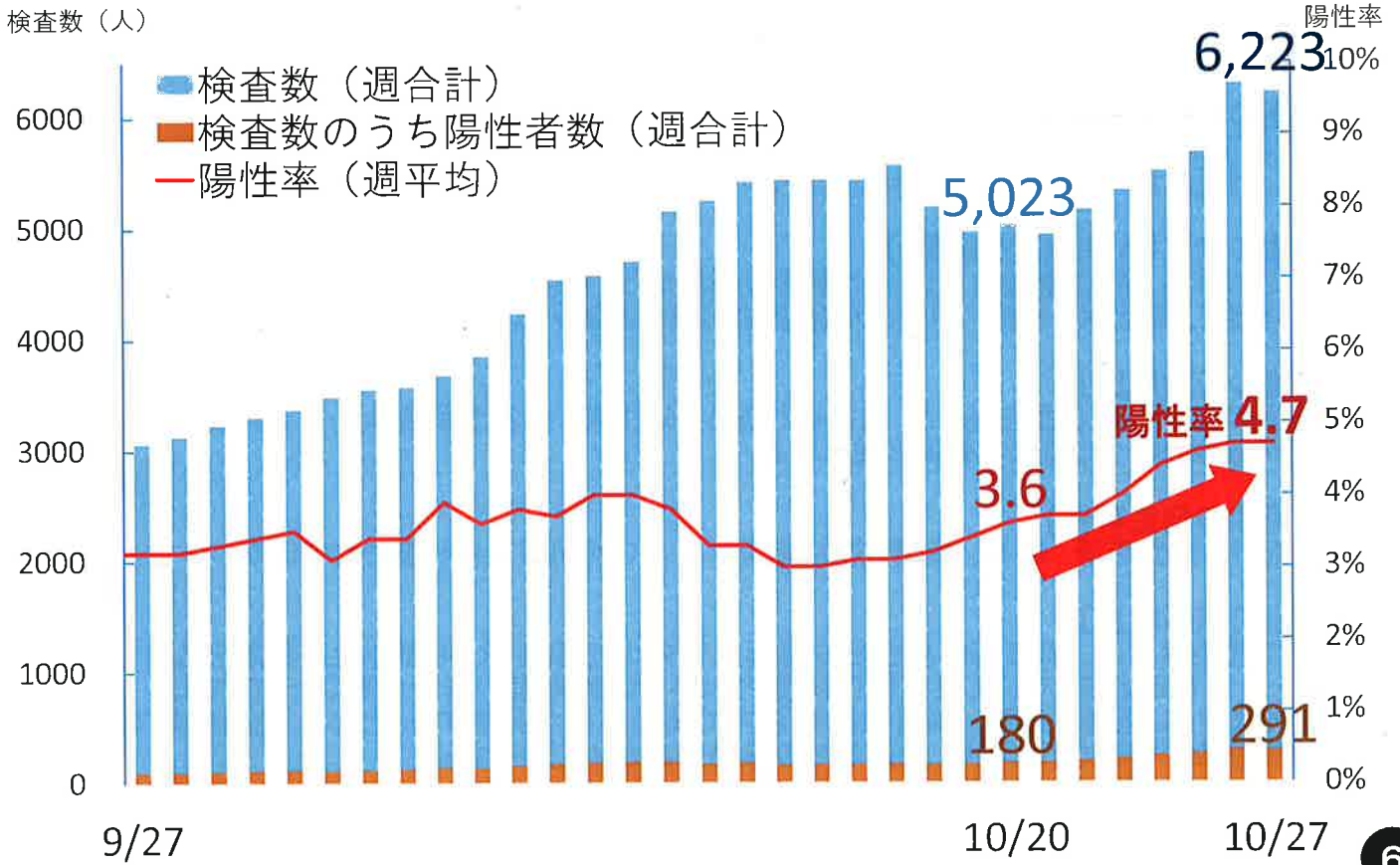
4

医療提供体制等の負荷(指標①)

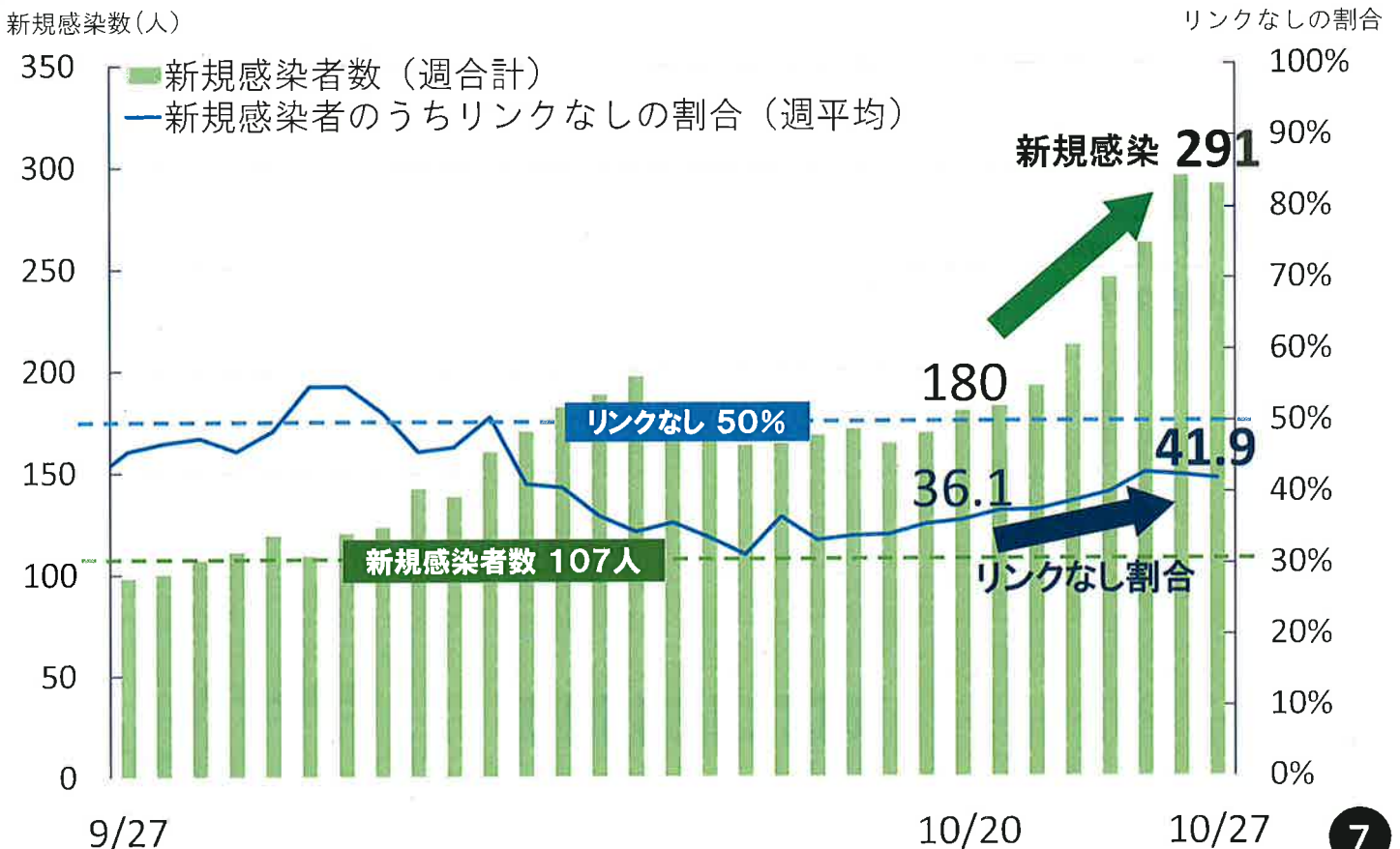


5

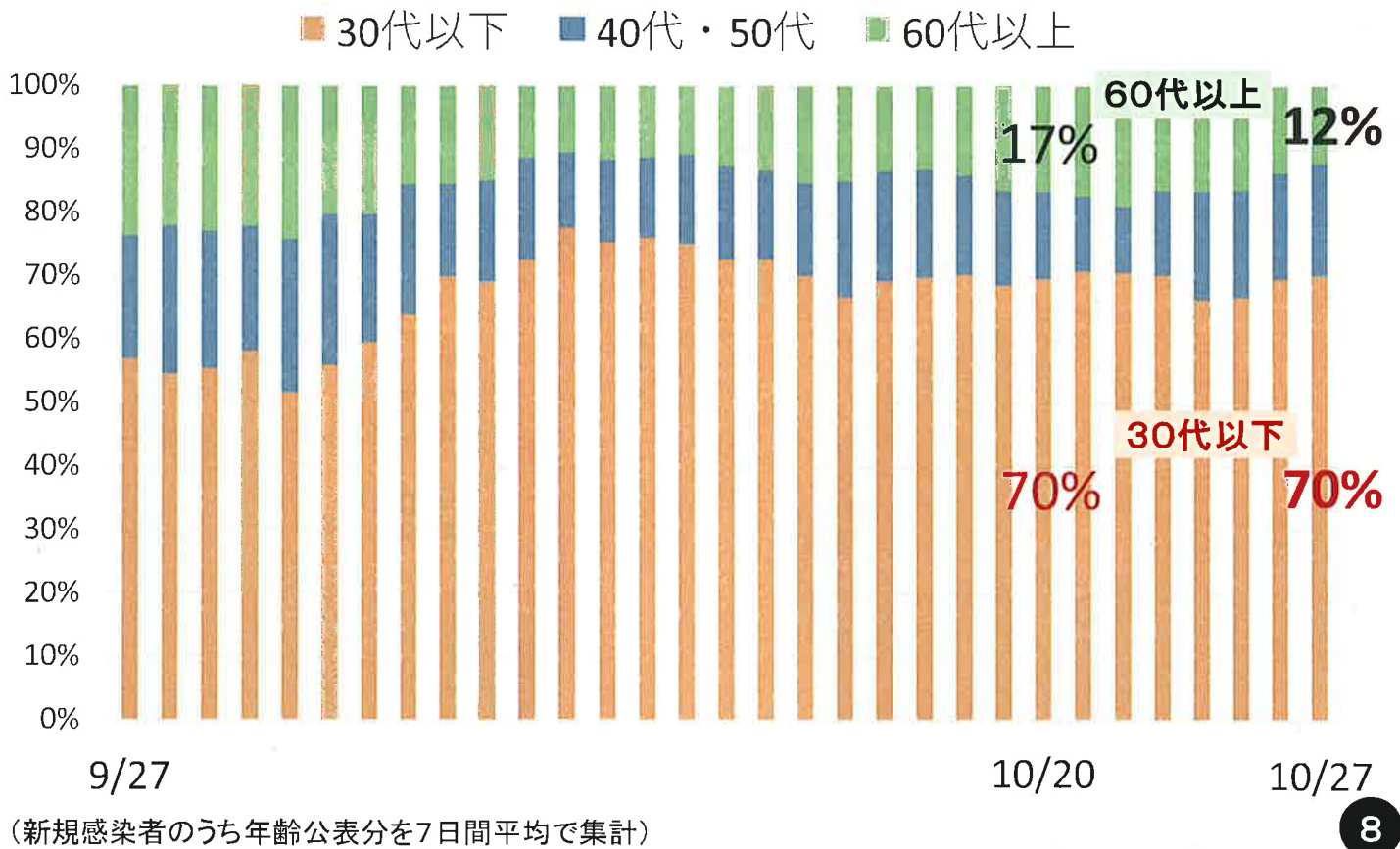
監視体制(指標②)



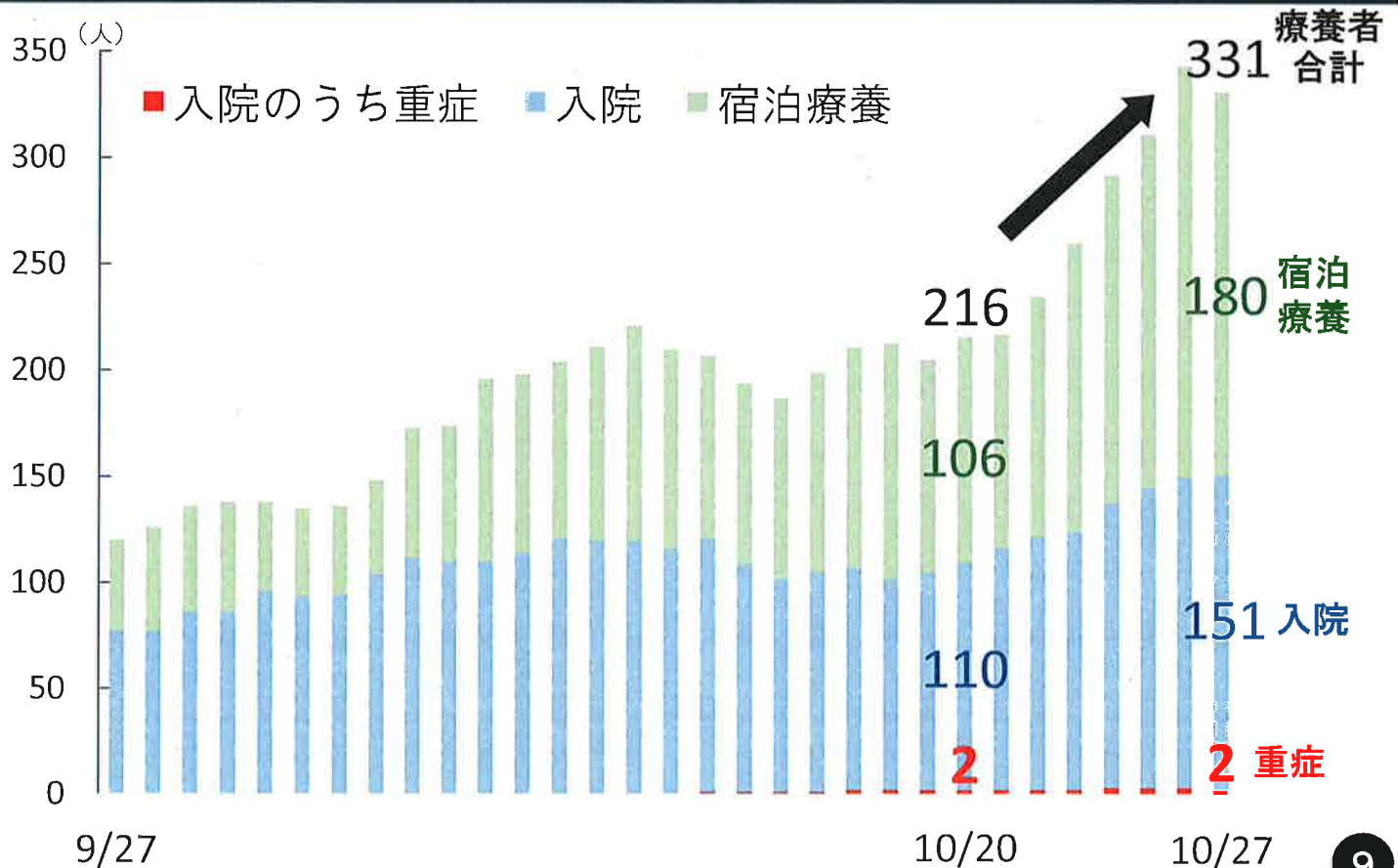
感染状況(指標③)



新規感染者の年代別割合



療養者の状況(入院と宿泊療養)



地域別の新規感染者数(札幌市／札幌市以外)

1か月前

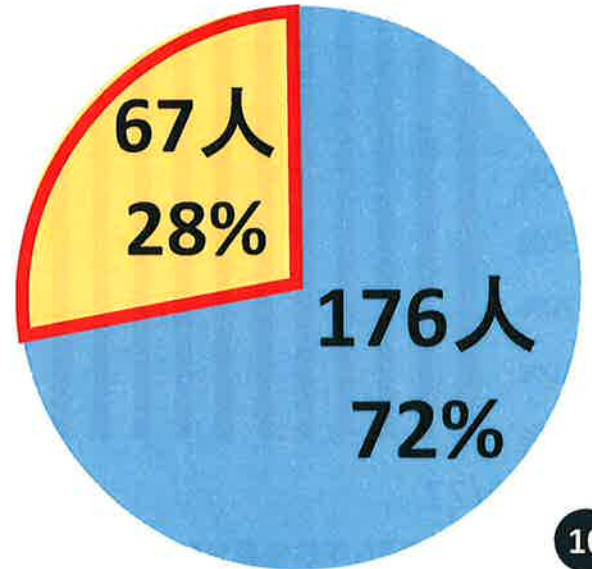
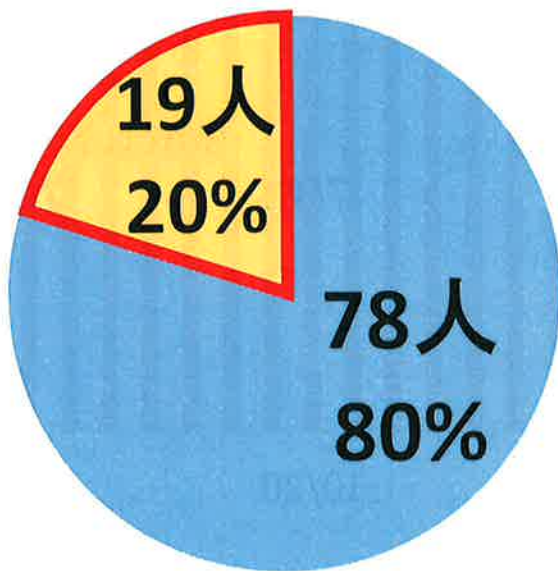
(9月23日～9月29日)

直近1週間

(10月21日～10月27日)

【感染者のうち居住地公表分(道外居住者を除く)】

■ 札幌市 ■ 札幌市以外



10

地域別の新規感染者数(振興局別)

	空知	石狩	後志	胆振	日高	渡島	檜山	上川	留萌	宗谷	オホーツク	十勝	釧路	根室	その他	合計
9月23日～9月29日	1	86	2	5	0	0	0	0	0	0	1	2	0	0	10	107
9月30日～10月6日	1	106	6	5	2	0	0	1	1	0	0	1	1	0	14	138
10月7日～10月13日	7	123	16	11	4	1	0	9	0	0	0	0	1	0	9	181
10月14日～10月20日	13	90	10	3	23	0	0	1	0	0	0	0	20	1	19	180
10月21日～10月27日	1	194	8	4	2	2	0	4	0	1	2	4	21	0	48	291

11

感染者の主な行動履歴

- 道外との往来
- 飲酒を伴う会食・会合
- 職場内
- 家庭内

12

一か月間で見られた道内の集団感染事例

- 接待を伴う飲食店等 16件(162人)
- 学校 2件(35人)
- 事業所等 5件(32人)
- 福祉施設 5件(41人)

13

「警戒ステージ2」における 感染拡大防止に向けた施策について

【令和2年10月28日】

集中対策期間

～感染拡大を抑え込むため、集中的に取り組む施策～

期 間	令和2年10月28日(水)から令和2年11月10日(火)まで2週間
内 容	特措法第24条第9項に基づく協力要請を行うとともに、更なる感染拡大防止対策を実施

特措法第24条第9項に基づく協力要請の実施

- 発熱や咳があるなど体調が悪い場合に外出を控える
- 飲酒を伴う場面などにおける感染リスクを回避する行動の実践
特に札幌市内での徹底
- マスクの着用など高齢者、基礎疾患を有する方等と接する場合の慎重な行動の実践
- テレワークの推進や時差出勤などの更なる活用
- 国の接触確認アプリ（COCOA）や道のコロナ通知システムの更なる活用

感染拡大防止対策の更なる強化

- 感染者の増加を見越した相談診療検査体制の更なる整備
 - ・感染の兆候を把握し検査につなげるため、一般相談窓口の体制強化
 - ・発熱患者に対する診療体制等の整備
 - ・感染拡大地域における積極的なPCR検査等の実施
 - ・集団感染が発生した際の振興局ごとの即応体制の更なる整備や、
「北海道感染症広域支援チーム」の迅速な編成・派遣
- 普及啓発等の強化
 - ・「普及啓発用資料」の活用、出前講座の実施
 - ・札幌市内の多くの人々が利用する場所での集中的な広報
 - ・繁華街でのマスク着用などの個別啓発
 - ・新北海道スタイルの実践やテレワークの推進など、企業に対する働きかけ

■ 体調が悪い場合の例

- 発熱や倦怠感、咳、のどの痛み、味覚・嗅覚の異常、筋肉関節の痛み、吐き気がある場合など

■ 感染リスクを回避する行動の例

- 次のような場面において、「マスクを着用する」、「人との距離を取る」「大声を抑える」などにより、感染リスクを回避
 1. 飲酒を伴う場面、
 2. 仕事後や休憩時間、
 3. 集団生活、
 4. 激しい呼吸を伴う運動、
 5. 屋外での活動の前後、
 6. 多くの人が集まるイベント等
- 高齢者、基礎疾患を有する方等と接する場合には、「マスクを着用する」「距離を取る」などにより感染リスクの回避